

News Release



平成25年6月14日

ESD教材「アンコール世界遺産のさまざまな暮らし」が完成

我が国の提唱による「持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)」が第57回国連総会で採択されて10年になります。ESDとは持続可能な社会作りの担い手作りともいえます。

金沢大学とカンボジアのアンコール世界遺産の管理組織であるアンコール遺跡整備公団との大学間交流協定をふまえ、また、金沢大学が発信するESD教育支援事業のひとつとして、ESD教材「水と生きる 大地と生きる－アンコール世界遺産の暮らし」を作成しました。

世界屈指の文化遺産であるアンコールワットはよく知られていますが、山地から平野、湿原、そして湖と、カンボジアには美しく変化に富んだ自然があります。雨季と乾季とで大きく変わる過酷な自然と、それと調和的に暮らす魅力的な人びとがいます。アンコール王朝の時代から現在に至るまで、変わりやすい自然と無理にあらそうことなく、その自然の恵みをうまく利用しながら暮らす人びとです。アンコール世界遺産に暮らす人びとはESDを理解するうえではまさにうってつけの存在といえましょう。



ESD教材「水と生きる 大地と生きる－アンコール世界遺産のさまざまな暮らし－(児童用)表紙



ESD教材の2枚目(表)「アンコール遺跡と世界遺産公園」の説明



ESD教材の4枚目(裏)「湖畔にあるコンプルック村の暮らし」

ポートフォリオ形式のこの教材は、小学校高学年を対象とする児童用図版8枚、学校の先生方やご家庭の方々を対象とする指導者用図版8枚、そして解説編4枚の3部から構成されています。

8枚から構成される図版（児童用・指導者用）は、表紙とアンコール世界遺産の説明に続き、アンコール世界遺産公園にある6つの村での人びとの暮らしが、それぞれ1枚の用紙にまとめられています。表には雨季と乾季とで大きく変わる自然が写真で比較できるようになっており、裏にはたずねた家の見取り図とともに、村の周囲の自然や人びとの暮らしが豊富な写真とともに解説されています。ポートフォリオ形式ですから、それぞれのシートを机の上に広げたり、並べ替えたり、他の資料を挟み込んだり、あるいは野外に持ち出したりと多様な活用が可能です。

この教材では、アンコール世界遺産の自然とそこで調和的に暮らす人びとについて紹介していますが、これを身近な自然や暮らしを見なおすきっかけにしていきたいとの思いも込められています。つい先日、石川県では世界農業遺産会議が開催されたばかりです。持続可能な未来を実現する知恵が、地域の里山や里海にもきっと息づいているはずです。

参考情報

○持続可能な開発のための教育（ESD: Education for Sustainable Development）
文部科学省日本UNESCO国内委員会：<http://www.mext.go.jp/unesco/004/004.htm>

○我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画
内閣官房ホームページ：<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/keikaku.pdf>

<本件に関する照会先>

環日本海域環境研究センター教授 塚脇

Tel：076-264-5814

電子メール：shinji@se.kanazawa-u.ac.jp

<担当>

広報戦略室 廣田

Tel：076-264-5024